

# 中川根ふる里通信

## = 第10号 =

編集・発行・モア・ラブ中川根  
 連絡先 428-03  
 静岡県榛原郡中川根町上長尾  
 中川根町役場総務課<sup>990</sup>  
 ふる里通信係  
 郵便振替口座(名古屋)7-81536



# 茶 娘

昭和30年5月撮映  
 写真提供

高郷久野英明様

# 母校は今

## 久野脇小学校



少量ながら、三十年ぶりに流れる大井川に、釣り人の姿が、あちらこちらに見られる風情が、大變なつゆ、心を豊かにしてくれました。今は、校舎なき母校の庭に立って、眺めて見ました。そして、振り返って見ました。

川に面して立ち並ぶ数本の榎木は、東から白檀(びんぼん)百日紅(ひゃくにっぺいこう)もみじ、桜と、私達が入学した当時(昭和十二年)と、變らぬ位置に見られます。

昔と變らずに今も尚、と申しのべたいのですが、百年余りも生き続けているので、うか、長い歴史を物語る様に、そして、強い風雨に耐え抜いて来た姿は、私の知る限りでも大變異なっております。

濃い緑の傘を、大きく大きく広げた様にもみじの木、その根元は、どっしりと太く、苔むしております。その西側に、桜が二本ありましたが、今は一本だけが老木の中腹より、枝葉が繁っております。もう一本は老木化して枯れてしまったので、うか切られて、根株だけが面影を残しております。

百日紅は、私達が入学した当時には、太い幹が、ひとかかえもある様な大木でした。屋根の様に広げた枝葉に、ピンク色の花が、いっぱい咲き、大變美しいので、事を、おぼえております。

今は根元から新しく二本の幹が、のび重なり合う様に成長しております。そのそばに、若木を見守る様に、昔の大木が、朽ち果てた姿で、一爪位の文で、うかの皮だけが苔むして面影を残して、おり、その先端に一本新たな命をつないでおります。

白檀の木も先端は枯れておりますが、一生懸命生きております。

当時、これらの樹木に平行して、東側から職員室と、三教室が一棟に建てられて、模範校の授業でした。職員室の前に、『至誠』と額に入れられた二字が、朝礼の時、校長先生のお話を聞きながら目にしました。意味も理解出来ませんでした。五十才の坂を登り、うかうとする今、少しづつ解ける様に気がします。その校舎も、昭和二十六年に、運動場拡張の為、校舎増築の為に取りこまれました。一段高い位置に、二階建の新校舎が設立されて、私共の子供達は、そこで学ばせて戴きました。

昭和四十八年には、明治、大正、昭和とはけしく移り変わる世相の中に、久野脇小学校創立五百年を、めでたく迎えられるまで、記念式典がとり行われ、記念誌が発行されました。そして、昭和五十年には、下長尾に南部小学校が設けられ、統合する運びになり、長い長い歴史を閉じる事になりました。

久野脇小学校最後の卒業式に、私も婦人会の立場から出席させて戴きました。明治の初期、先祖のおじいちゃん、おばあちゃん達から、今日に至るまで、多くの入々の、築き、学んだ御苦労を、忍びつつの最後の卒業式は、感無量と申すので、うか、ほろを、ぬらした、うかの、参加で、こさいました。校庭の桜が、いつの年より、すくと早く、ちらほらと咲き、そめていた事をおぼえております。

大せいの方々の想い出を、いっぱいに残した校舎も、今はすっかり取りこわされ、又新たな世代を築くため、久野脇集会所として、明るく近代的な建物が設けられました。区民の諸々の集いの場に、利用されております。運動場は、老人の皆さんの楽しい、カート、ボールの場に、子供達の運動

今、根元から新しく二本の幹が、のび重なり合う様に成長しております。そのそばに、若木を見守る様に、昔の大木が、朽ち果てた姿で、一爪位の文で、うかの皮だけが苔むして面影を残して、おり、その先端に一本新たな命をつないでおります。

白檀の木も先端は枯れておりますが、一生懸命生きております。

当時、これらの樹木に平行して、東側から職員室と、三教室が一棟に建てられて、模範校の授業でした。職員室の前に、『至誠』と額に入れられた二字が、朝礼の時、校長先生のお話を聞きながら目にしました。意味も理解出来ませんでした。五十才の坂を登り、うかうとする今、少しづつ解ける様に気がします。その校舎も、昭和二十六年に、運動場拡張の為、校舎増築の為に取りこまれました。一段高い位置に、二階建の新校舎が設立されて、私共の子供達は、そこで学ばせて戴きました。

昭和四十八年には、明治、大正、昭和とはけしく移り変わる世相の中に、久野脇小学校創立五百年を、めでたく迎えられるまで、記念式典がとり行われ、記念誌が発行されました。そして、昭和五十年には、下長尾に南部小学校が設けられ、統合する運びになり、長い長い歴史を閉じる事になりました。

久野脇小学校最後の卒業式に、私も婦人会の立場から出席させて戴きました。明治の初期、先祖のおじいちゃん、おばあちゃん達から、今日に至るまで、多くの入々の、築き、学んだ御苦労を、忍びつつの最後の卒業式は、感無量と申すので、うか、ほろを、ぬらした、うかの、参加で、こさいました。校庭の桜が、いつの年より、すくと早く、ちらほらと咲き、そめていた事をおぼえております。



の場にと、小高い所に場所を移した二宮金次郎様に見守られたが、今もなお久野脇区の向上以前進の場として活用されております。  
 最後に、行き届かぬ文である事をおわび申し上げ、皆様方の御健勝と御活躍を心よりお祈り申し上げまして終りにさせていただきます。

久野脇

西原 美千 (旧姓赤土)

### 旧久野脇小学校校歌

上原 要平 作詩  
 大石 進一 作曲

一、遠くそびゆる赤石の

水を集めし大井川

つきぬ流れは久野脇の

学びの庭の生命なり

二、わが同胞が伝え来し

永世かわらぬみなのらの

愛とまことは久野脇の

学びの庭の目標なり

三、清き流れに育くまる

土の恵みにすくすくと

伸びるわれらぞ久野脇の

学びの庭の誇りなり



大井川面の運動場より  
新校舍跡を写す。

昭和42年より、久野脇小学校同窓会(現在最高齢者88才)が発足され、年齢も、1年すぎると、1年下の学年も参加して行く方法で、今春20周年を迎え、現在、昭和元年(大正15年)の入達まで、会に出席キップがとといています。日時は、1月9日、会場は、久野脇集会所。この日、全国各地から思い出の地に旧友はせ参ります。



久野脇集会所

# 1988 - 1988 - 1988 新茶レポート

忙しかった今年の新茶の摘みとり、製造も7月上旬で、はつ終りました。

「あかねだすきに すけの笠。」

とうたわれてきた茶摘み風景は、今ではあまり見られなくなり、代ってモーター付茶刈機で新茶を刈り取る風景が見られるようになりました。

「長年の銘茶産地の伝統の上に、新しい茶づくりの技術を取り入れて、よりおいしいお茶をつくり出そう」ということをめざしてふる里の茶農家は、今年も本場の「川根茶」づくりに頑張ってきました。

特に本年は、防霜ファン設備（茶畑内のあちこちに、大型の電動扇風機を据えつけ、春光の温度低下によっておこる霜の被害を送風によって防ぐための設備）が完成したため、昨年まで悩まされていた霜の被害を受けることもなく、品質のすぐれたお茶をとることができました。

地元の農協製茶工場（キタハイ農協中川根製茶工場）へ出荷されたお茶も、例年になく品質の良いものばかりで、生産量も昨年に比べてぐっと増加しました。

6月上旬に静岡県茶業会議所が、県内の茶問屋に対し、今年のお茶の内容について、アンケート調査を、改しました。この中に「ここ数年の品質と比較した、ここの一番茶の品質はどうでしたか。」という質問項目がありました。この回答として、「かなり良い」が29.8%、「やや良い」が55.3%、合計して、85%以上が「良い」という答えを出しており、本年のお茶が全般的に良品であることを証明する結果となっております。とりわけ私どもの中川根地区では、茶農家全戸が、みる芽づみ生産を励行したため、良品のお茶がとれ、消費地の茶問屋からも好評を頂いております。

最近「ホンモノ志向」の動きが強くなってきているといわれますが、昨今の消費地からの注文の上にも、そのような動きが出てきているように感じられます。

ひところ「川根茶」の名前だけを利用して、粗悪なお茶を消費者に売りつけた心ない茶商もいたようですが、やはり、ホンモノには勝てないということなのでしょう。

茶価の低迷が続く中で、「おいしい」「ホンモノの川根茶」をつくるために努力してきた、ふる里中川根の茶生産者の心意気を、改めてお汲みとり頂きたいと心から願うものであります。



農協中川根製茶工場では、銘茶産地中川根の名前を高めるため、地域で生産されたお茶を入念に仕上げ加工を、致し、消費地（茶店・デパート等）へ送り出しておりますので、ぜひお求め下さい。

なお、直接のご注文（電話又はお手紙）も、お受け致しておりますので、ぜひご用命くださいますよう、この棟をお借りして、お願い申し上げます。

・川根茶についてのご意見や、包装その他について、お気づきの点がありましたら、ご遠慮なくお知らせ下さい。

中川根製茶工場 細田 洋

〒428-03

静岡県榛原郡中川根町上長尾 1289-1  
(字梅島下)

TEL 0547-56-1142

キタハイ農協 中川根製茶工場 宛





# 人物紹介 渥美文雄さん 上長尾 (七十七才)



川根茶と並び、ふる里が全国に誇る名物に、お茶羊羹があります。お茶羊羹を考えたし、造り続けて半世紀余。お茶のシーズンにあわせ、上長尾の渥美文雄さんを御紹介いたします。

渥美さんの先々代までは、ふる里紹介の梅島、天王原に住んでいました。父親の林平さんは、横浜で製菓の修行をして、菓子屋を開き、大正年代になって現在地(上長尾)に、光林堂を開業しました。

渥美さんは、高等課卒業後、静岡の八木パンで三年ほど勉強をし、家業を手伝う為に帰って来て一年、十九才の時、父親が亡くなり、その後、母親を中心に、兄弟力をあわせて、菓子造りに励みました。

お茶羊羹を考えたきっかけは、大井川鉄道も開通し、交通の便もよくなりました。友人が「何か名物をこしらえてみては」との助言により、川根茶をベースにしての菓子造りに取り組みました。川根地区においては、茶羊羹は、光林堂が「はまり」という事になります。

昭和五年十月、静岡県青年製作品展覧会(果知寺白根竹介、審査長・中泉農学校長細田多次郎)で優良賞を授賞した事は、大きな励みになりました。それから一途にお茶羊羹の研究をして今日に至っておりますが、一番苦学をした事は、川根茶の本質を生かすこと。だと言われます。昭和五十九年には第二十回全国菓子大博覧会において、名誉金賞を授賞されました。

現在では、息子さんが秘伝を受け継がれ、長男は、本家を、次男は徳山に、光林堂を開店しております。渥美さんは地元の子供達に愛情をそそがれ、小・中学校、保育園に多大な献金、プレゼントをなさっております。今も、お元気で菓子造り、老人クラブと活躍されています。

銘茶羊羹、銘茶最中とも、全国発送受け賜っております。

住所 428 静岡県榛原郡中川根町上長尾 光林堂

TEL. 0547 (36) 0064

## 健康をつくるお茶

お茶は嗜好飲料ですが、薬効的性格を具えた面もあり、薬用として重んじられてきました。今日でも日常の飲料であるにもかかわらず、薬用面での話題が多くあります。

お茶が日常生活の中で如何に健康維持の上で役立っているか、また、病気の予防の役割りを果たしているか、紹介してみよう。

### 茶産地の胃ガン死亡率は他の半分

細胞の突然変異が、ガン化への第一段階で、周囲には食物、水、空気、発ガン物質が存在しています。緑茶の抽出液も、突然変異誘発因子細胞培養液に加えた結果、突然変異の発生率が低下することを発見した(茶タニニン、茶サポニン)

### 動脈硬化と高血圧とお茶

老化は血管から始まるといわれる。動脈硬化、この動脈硬化が進むと血圧は上昇し、脳や心臓にも障害を与える。お茶の中には、カテキン、テオブロリンは、冠血管を拡張し、血液の流れをよくする事で、狭心症にきく。ヒタマニシ(お茶には豊富にある)は血液の中のコレストロールと中性脂肪を体外に排出する作用がある。高血圧の降圧効果は、あまりわかっていない。

### 番茶は糖尿病の「特效薬」

不治の病といわれる現代病、糖尿病が、お茶に含まれているエキスを抑制できるといふ研究が新聞などで話題を呼びました。茶の葉に含まれるポリサッカロイドの一部は、血糖値を下げる効果があるといわれています。

ポリサッカロイドが多く含まれているエキスの抽出率は、番茶が一番多く、近い将来番茶エキスを主成分とする副作用のない持効薬を生み出さそう。

現在持許申請中とか、糖尿病に悩む人たちに、いニユースといえませう。

その他、漢山あり、知りた方は、出版物を、ご覧下さい。手づくり日本食シリーズ「健康食お茶」発行所、社団法人 農山漁村文化協会

¥1,000

# 中川根町教育委員会 中 沢 莊 也

# ふるさと学級紹介



梶原さんから「ふるさとの大蛇」の話をお聞きする子供たち

中川根町教育委員会では、町内の小学生四年生以上を対象に中川根の豊かな自然に触れ、祖先から引き継がれた歴史、文化の伝統を学ぶことにより故郷の良さを再発見するとともに、ふるさとを愛する心、発展に尽くそうとする気持ちを培うことを狙いとして、ふるさと学級を開設しています。

現在学級生は七十二名で、学習はテーマに基づき、仲間づくり、班旗作製、伝説の里をたずねる、水泳教室、ボート下り、サバイバルキャンプ、文化財めぐり、伝承遊びの集い、もちつき等、年九回行います。

それでは、ここで今まで行なった学習の内巻、子供達の様子について少しペンを取ってみます。

第一回学習会は六月十一日(土)テーマは仲間づくり、伝説の里をたずねる。参加者は六十七名で次のような活動を行いました。

(一)自分達の班のシンボルとなる班旗の作製  
(二)尾呂久保の池のはたに伝わるおろちの話  
(三)モリアオガエルの観察

班旗の作製は、初めて顔を含ませたこともあって、グループに各々込めず同じ学校の友達と隔て話をしていたり、活動の輪に加わらず飛び回っている子供が多数見られ、たが、堀畑先生の指導、助言もあり徐々に協力の輪が広がり、時間内にはほとんど完成したようです。

おろちの池の大蛇の話は、南赤石林道を歩き、途中何回も休みながら約二時間かけて着いたおろちの池へ六十三三年三月復元で直将尾呂久保の梶原さんから聞きました。

梶原さんの話はおよそ次のようでした。

栗原ひろいに来た女の子が大蛇の目を栗と間違えてつまみあげ、大蛇の怒りにおれが相殺の結果、そんなおそろしい蛇を池に住まわせておくわけにはいかなかったというので、池に汚い物を投げ入れ、蛇を池から追い出してしまった。蛇は住んでいた池を振り返り、振り返り流した涙が滝となり、涙に注いだと言われている場所、蛇の涙はいつでも水が枯れることなく真夏の暑いさかり、山道を行く人ののを潤しているという事です。また大蛇の通った所の地名は、しっぽの「尾」をつけて上長尾、中尾、下長尾と呼ぶようになったそうです。

梶原さんの話を聞いた後、池の回りに棲息しているモリアオガエルの状態を手に触れて感触を味わい、池から落ちたおたまじやくしに目をやり、カエルの生態、特徴について学習しました。自然から学ぶ学習は田舎ならではのものと思います。

第二回学習会、七月三日(日)、参加者四十三名、少し肌寒い中、ボート下りに備えるというところで救命胴衣の着け方、安全性、ボートの組み立て方を学んだ。

第三回学習会、七月十日(日)、参加者四十

七名、三十年ぶりに水の流れるもと、大井川でのボート下り。ボートを組み立て救命胴衣を着け、いざ出発。とはいきませんが子供達にとり、初めての体験でもあり、川の流れるももったとはいいえ毎秒五センチの水では浅瀬もあり、ボートの腹をすり、立ち往生するボートも続出。久野湯河原から地名昭和橋付近まで約三キロを三時間かけてや々と下りました。子供達は自然を病み、川に水のあることのすばらしさを肌で感じ、くわたりださうか、数十年経ってこの子供たちが大人になった時にも、人間と動植物が共存できる豊かな自然が中川根に残っていることを願ってやみません。

我々人類はあなたが万物の霊長であるかのように振る舞い、自然を自分達の住み易いようにと変え、動物を森からしめ出し、魚を川から追いやってしまわれました。そして、真綿で自分の首を締め、おぼせていくような結果を招きつつあります。豊かさは自然を使えば残すことは、我々に課せられた使命ではないでしょうか。また、観光開発に名を借りた自然破壊は現に積み重ねられています。



激しい水を上げて下るボートに子供達の歓声が四方八方にこだましました。

七名、三十年ぶりに水の流れるもと、大井川でのボート下り。ボートを組み立て救命胴衣を着け、いざ出発。とはいきませんが子供達にとり、初めての体験でもあり、川の流れるももったとはいいえ毎秒五センチの水では浅瀬もあり、ボートの腹をすり、立ち往生するボートも続出。久野湯河原から地名昭和橋付近まで約三キロを三時間かけてや々と下りました。子供達は自然を病み、川に水のあることのすばらしさを肌で感じ、くわたりださうか、数十年経ってこの子供たちが大人になった時にも、人間と動植物が共存できる豊かな自然が中川根に残っていることを願ってやみません。

我々人類はあなたが万物の霊長であるかのように振る舞い、自然を自分達の住み易いようにと変え、動物を森からしめ出し、魚を川から追いやってしまわれました。そして、真綿で自分の首を締め、おぼせていくような結果を招きつつあります。豊かさは自然を使えば残すことは、我々に課せられた使命ではないでしょうか。また、観光開発に名を借りた自然破壊は現に積み重ねられています。

中川根南部小学校は下長尾にあり、運動場の前はすぐ大井川があります。そして、町内学校の内一番大井川と仲良しの学校です。それは、大井川学習を数年前から行っているからです。

校長先生は加藤哲夫先生、児童数は二百人に少しありません。大井川学習には二つの方法があります。一つは教育課程で隔週土曜日に各学年、大井川に団体あるテーマをもって学習すること。(例、植物の研究、和紙造り、動物の研究など)。もう一つは、年二回全児童が集まる(児童会主催)大井川の集いの催されます。

七月十日(土)下長尾上側の大井川で、流し焚き造りと平谷の流し焚きの勉強をしました。

大井川の集い、伝統文化創造活動であり、今回のテーマ、遊ぼう知ろう私達の大井川です。

大井川の歌を高らかに歌ったあと、平谷の流し焚きのいわれを瀬沢の原田耕作さんに話してもらいました。今から約一六〇年前に大井川が大洪水に見舞われた事、大勢の人の生命をうばい、田畑を流し、悪い病気が流行した事、大井川の怒を鎮めてもらうために、津島神社へ願を込めて流し焚きを納め、それから一年もかかす事なく流し焚きが続けられていることを判りやすく説明され、子供達も熱心に聞きました。

流し焚き造りは平谷の山田己喜夫さんが先生です。材料、竹、麦から、松あかし、縄、針金、平谷では直径三M位のものを造りますが、今回は数多く(学年二台)造るので直径一Mの台を造ることにしました。子供達も、先生方も、悪戦苦闘じりじり照りつける木



出来上がった流し焚きに、願いごとを書いた、たんざくを乗せ、今、お焚きという所です。

# 南部小児童会 大井川の集い

## テーマ 遊ぼう知ろう 私達の大井川



陽のむと約一時間で見事流し焚きが出来上がりました。学年二つの流し焚き、一つはたいまつを燃やし、一つは願い事を書いたたんざくを乗せ、子供達の歓声の中、水量のサー増した大井川を川下にゆつくりと流れて行きました。

たいまつを灯した流し焚きは悪い心も煙といっしょに流れてくれるのです。子供達に悪い心があるの事と聞きさすたら、小さな声で「陸上やすみたいと思う心。」「むだ話しをしない。」「おすれものをいじると答えてくれました。」

感想は？と聞くと、  
 「元気な声で」「下長尾でも流し焚きやってほしいよ」とか。  
 「流し焚きのことがよくわかってうれしい」とか。「川で泳いでうれしい。」でも、「あつしい。時間がかりすぎてつらい。」の、本音もちらりびり聞かれました。この日は、この夏一番の暑さでした。願いごとを書いた、たんざくには、

- \*大きな声で話せますように。
- \*はすのいと思わないで発表する。
- \*早く行動する。



大井川学習は生きた学習、子供達の心に体にふる里を学ばせた事でしょう。今後も継続してほしいと思います。



### 暑中 御見舞申し上げます

モア、ラブ中川根のふる里通信 発信につき、御苦勞様です。何時も拝読致しております。

つきましては、六号のふる里紹介、上長尾道跡で一枚の写真には、私共あの辺りに生活した(現在中川根中 体育館から運動場)人々には忘れがたき、本當のふる里の写真です。

この一枚の写真は、私が多感な少年期から青年期を思いおこしてくれました。思えば昭和十八・十九・二十年と、幾度東京から疎開をくり返した事でしょう。

とうとう昭和二十年三月十日東京大空襲を目の当りに見て、親子共々高郷の旧中川根中学校の裏側へ疎開し数年住らうとした。

数々の苦しみもありましたが、それ以上に人々の温かさ、人情味豊か、教養のない想い出があります。高郷部落第三班は、ちりぐいになってしまいました。私も他の人達も、奥い想いは、それぞれ胸の奥深く、今も音を立てている事と、思っています。

一枚の写真に想いをよせて。  
坂口 幸子 (高郷出身)

③高郷三班は、中川根の三中学が統合され新中川根中学校を造る為、移動した班です。

高郷に残っている人、他へ移動した人と様々です。中川根中全体が旧高郷三班の思い出の地と、なります。

## お便り



## コーナー

購読者の皆様、いつもお便りありがとうございます。今回コーナーを作るのが、特急便にあらず、鈍行便になってごめんね。皆様のお便りのコーナー、以後も継続しますから、どうぞ、お寄せ願います。

### 前略

大変、御無沙汰しておりますが、皆様には、御健康のこと、存じます。一人役の母が、いつも御厄介になってありまして、有難うございます。

本日は、ふる里通信 御送下さいます。ありがとうございます。日頃、中川根のことを、思いながら、なかなかに訪ねることも出来ず、せめて、新聞やテレビ、ラジオなどに出演するときは、中川根出身のことを、自慢して話しているの、項です。創刊号から七号まで、拝見いたしました。

現在の、中川根の様子、産業面ばかりでなく、文化面においても、認識が高くなって、うれしく存じます。産業と文化が相俟って、いかなければ、町の発展もないと、考えますので。

各小学校の校歌も、なつかしく作曲した当時の事、思い出されます。楽譜も、地名小のみで、他の学校の楽譜も、せていただければ、幸いです。いすれに、いぢりまして、ふる里通信、すばらしい企画でございます。是非文化面の発展のためにも、今後、紹介されます。格祈っております。

木津 文彦 (高郷出身)

渡松 布 在 住

### 編集室より

木津先生は、音楽の先生で、中川根の中小学校の校歌を作曲して下さいました。また、伝統の茶摘み歌、茶もみ歌、仕上げ歌、この地をテーマにした、白い木蓮の記憶など、女性合唱曲用に作曲されています。合唱など、活動されています。方は、御一報、下さい。TEL. 0547(五七)56(五九)00-54 沢野子

いつも、なつかしく、読ませて、いただいております。一部、100円と安いのは、ありがたいことではあります。もう少し、高くても、カラー版にしても、いいのでは、とも思っています。  
横 濱 市 在 住 長 嶋 辰 夫



このお便りは、いま流行している、ワープロによって、書かれたものです。ペンを持つ手が、キーボードを打つ手に代わりました。この機械は大変便利です。誤字を打つ心配が少なく、ごまかしの字は書けないのです。極めて速く、かつ精巧な文章が出来上がります。

さて、私はここで、精巧で完璧な文章が、果たして故郷へのお便り、と言えるかどうか。不安になってきました。これは、ワープロとの会話であり、旧友とか、故郷への手紙ではないのではないかと。思えてきたのです。誤字が有り、下手くその字があるから、懐かしい便り、となるのではないかと。

それなのに、何故、敢えてワープロによって、寄稿したのか。私の事務所には、コンピューターやファクシミリなどの、通信機器が設置されていて、24時間作動し、世界中の情報が、受信されます。これらも、実に、精巧、確実にできていて、ここで仕事をしている限り、世界中が隣の人である。あえて距離を感じるとすれば、言葉の違いと後で回って来る、請求書による、支払いによるだけである。むしろ車で1時間程の、中川根町のほうが、遠い所なのです。

時代は、既にこれらの機器無しには、活動出来ない所まで来てしまっているとすれば、我々はこれらをより有効に、活用しなければ、おいてきぼりにされてしまいます。だから敢えて、ワープロを打ち込み、山里への便りとの組み合わせも、面白いかと思って、ご無沙汰のお詫びに、打ち込みました。しかし、どうしても寂しいことは、そこには、なにも対話がないとゆうことです。触れ合いも有りません。しかも、1日中これらの機器に振り回されていると、これは、人間疎外ではないか、人間疎外それじしんを、将来これらの機器は、どのように処理してくれるのだろうか、と不安になります。

故郷のお祭り、そこには、人間の触れ合いがあり、対話があるとゆうから、あまり盛大ではなく、小さくいつまでも、残っていて欲しいと思う。

焼津市 杉山勝美

大雨の増水で橋が切れ、高郷から上長尾側に居る入達を眺めながら、ワイワイ、ガヤガヤ言った事や、汽車に乗るために下長尾から下泉に向かって渡り舟に乗った事など……

大井川には、いつも水はあつてあたりまえだと思つて育つて来た私達で、たが、ふる里通信(九号)の遊泳禁止のところ『お盆休みの頃……地元の子供は遊べないのです。』を読んで、ほんとに胸が痛くなりました。

雨のために泥水になった大井川を上長尾側から田野口側に向かつて必死に泳いだ子供の頃の思い出を、もう一度、地元の子供達に体験させてやりたいと、つくづく思いました。

島田市 山本昭子(旧姓 藤田 高郷出身)



朗報

中川根町の子供達も今年から大井川で水泳が出来ます。ただし、親が責任を持つ事。

※ 水は苦手ですが、今夏は水泳を、子供におしえてもらって、マツてみることに。(編)

お別れ

★ 中川根ふる里通信を送って戴き有難うございませう。山中利一郎 五月二十日、八十六才で他界致し、色々有難うございませう。(焼津市在住)

★ 故郷への思いを記しながら、三月父・富田実(旧姓 西村)は、浄土へと旅立ちました。(千葉 塚本 裕市 在住)

★ ふる里通信お送り頂き、ありがとうございました。御地出身の主人も亡くなりました。(神戸市在住 渥美 敏子)

御冥福お祈り申し上げます



うなぎです

先日の中川根ふる里通信九号を送っていたに、ありがたうございませう。ふる里を離れ三十年とは早いものです。私も昨年九月又となく、五年ぶりに帰ったような有様で、ゆっくりふる里を思うこともままなりません。

こんな時、ふる里通信は、遠くにいてもふる里が手にとるようにわかり、大変なつめしく、涙ませてもらっております。これからもよろしく。

高畑 進 (上長尾出身)  
東京都在住



神社 仙閣 今昔

明治維新まで各地各所に多数の神社仙閣がありました。梅島 高手山にも二寺一堂 三宮があった事が 中川根町史を調べてみて判りました。それらの寺社は明治七年 智満寺 上長尾八幡神社へ二社 下長八幡神社へ一社合併し 廃社寺となりました。今はその場所すら判らない所もありますが 意外に歴史を發見したりしました。又 梅高地区の人意が歴史とほりおこし 現在地区のお祭りとして 婚宮さんをおまつりしている事も 善男善女のなせる技と思われまます。なお 廃社寺の跡地は 明治七年の学校建設資金の為に売られ 私有地となっております。

★天王原に大きなお宮が。

梅島に天王原(森)又は宮の森と称す広い土地があります。その中に 天王原遺跡と稱する川墳の様な小山(以前は高のた)があります。この地に 天王社という大きなお宮がありました。天王社は寛正二年(四六二年)に建立され 素戔嗚尊がまつられ 御朱印地ニニロロ坪 境内ニ三三坪の家山以北一番のお宮でした。明治維新神仏分離令が発せられ 八坂神社と改称され同じ子に八幡神社に合併されました。天王社があったからこの附近は天王原と呼ばれ 谷川に登ると 宮入坂 社領内と思われ 地に 的場(とくば)という地名が残されています。且 最近まで 直径数メートルある木のつり際が その宮を存在を証しているかの様にあったといわれますが 今は無く なっています。

★熊野権現と御神体

高手山の権現原に熊野神社がありました。連玉命がまつられ 明和九年(一七七二)建立の棟があります。明治七年の寺神合併により 下長尾八幡宮に合併されました。その時熊野神社の御神体があまりに大きすぎて 八幡宮に入らず 又持ち帰って かまんでの家であすかまつりされた。御神体は 杉の木で造られていたと言われます。明治十七年の大火の際 焼失 交上されました。その時 御神体の灰といっしょに 沢山の御札が 舞い上ったと言います。何故御札が舞ったのか? 御神体は胎内に御札が納められていたのでは と言われています。



天王社跡地と 天王原(森) 右上、木又本的小山が天王原遺跡

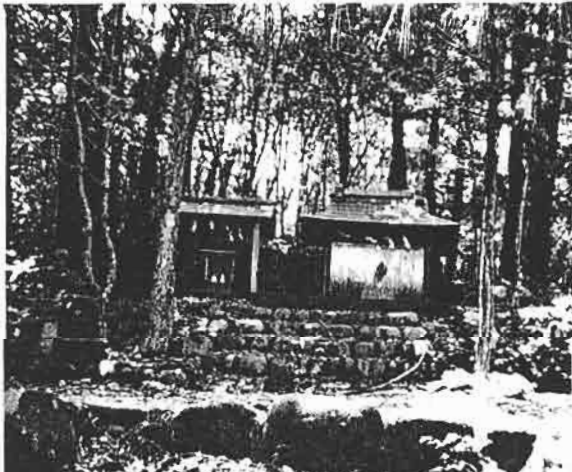
現在の梅高地区

★梅島下の発達

戦後まで 教軒(かたが)の地が見える間に家が建てられ 梅高地区の人口の半分にせまろうとされています。炭酸製茶工場など大きな建物も目立ちます。何手か掘った大井公開堂(映画館) 高松舞踊団など と言った近年が知れましようか。

★豊かな茶園地帯

つい近年まで 梅高の茶園は霜害に悩まされてきました(平池)が 防霜(ぼり)も設置され いろいろお茶が 沢山採れます。エビ 蟹も 思われ 茶園も多く見られます。数年前 梅島内 窪地に 産葉 廃棄物が 来るといふ 少く 前 中川根 候補地に 天王原が あったと、今は おもしろく 語られる 状況は 中川根 茶産地として 明るく 未来がある かと 思っています。



★姫宮さん

以前は 沼平の 近に 祠がありました。今では 梅島の 背戸山に移して 宇真 右衛門 姫宮さん 左衛門 おいなりさんに なる。四月三日が お祭りです。姫宮さんは 後醍醐天皇の 皇女ではないかと いろいろいわれています。以前の 湯河の 近くにおしゅう林と呼ぶ 地名があり おしゅうは 姫林(ひめはや)に といふ事です。その 祠の中に 刀(や)と 手鏡(てがた)がありました。小刀は 肥前國(ひぜん)吉原(よしはら)か あり 姫林(ひめはや)が とり年の 女(メ)であると 神の 祝言(いわ)で 書かれています。手鏡は 藤原光重(ふじわらひみつしげ)が あり 裏面に 白南天(しろなんてん)が 画(え)かれています。白南天(しろなんてん)は 魔(ま)よけの 刀(や)がある といわれます。



定期購読のお願い

中川根ふる里通信は有料発行です。

1部 76100円  
 皆様の定期購読がこの通信の発行を支えます。  
 年間4回(季刊誌)の発行を予定しておりますが、63年度は100円で計画致しますが、来年、64年春の号から、1部76150円にさせていただきますたく、お願いいたします。  
 一層の紙面充実を心かけたいと思っております。  
 今日で期間の切れるため、郵便振替用紙を同封致しますから、引き続き御購読とお願いいたします。  
 なお、購読期間が切れて半年以上、次の購読料が振込まれない場合は自動的に中止とさせていただきます。

お問い合わせ

TEL. 0547 (56) 0015.  
川沢節子

払込通知票

口座番号 名古屋(7)-81556.  
 加入者名 モアラブ中川根ふる里通信係

中川根のむかし話がラジオで朗読されています

NHK 第一 週木曜日 7:40 ~ 8:00

FM 週水曜日(夜) 6:00 ~ 夕凧のひびき

1回2話ずつ、40話(20回)朗読されます。どうぞラジオのスイッチを入れてみて下さい。11月ごろまで放送予定されています。

好評の「中川根のむかし話」3,000部発行されましたが、町内外の皆様よりの御注文で、残部わずかとなりました。少々残っております。御入用の方は、現金封筒に1,300円を入れて、〒428-03

静岡県榛原郡中川根町上長尾

山林開発センター内

中川根町教育委員会 宛

お申し込み下さい。



大井川清涼祭

ことしも大井川清涼祭が皆様のおこしとお待ちしています。

いつ 8月13日(土)夜

どこで 藤川川原

どんなことを 盆おどり 花火 など

主催 中川根町青年団

お詫びと訂正

第九号大井川水問題特集の中で、水利権の種類を横行水利権を観光水利権と書いてしまいました。何とも申しわけありませんが、お詫びさせていただきます。

六月初め、友達に高塚山登山につれていっていただきました。高塚山はその昔(南北朝のころ)後醍醐天皇の皇子のみしるしが納められた場所の伝説があります。中川根河役場がそば、種山から登山道を開いてあります。その日は前日かなり強い雨が降り、大井川、天竜川も濁流となっていました。初夏にはめずらしい晴天で、遠くの方まで見渡せました。天竜川はその名の通り、遠くからは、ふたがくねっている様に見えます。そして濁流が海に入り、海岸線の色(ミルコビー)に染められているのを見ました。時、やっぱり海岸の砂浜は山の土をすりすすり取り取って川がはへて出来るといいます。確認しました。海岸線のやせはそれを気にとりながら……高塚山はともまた別の所でした。

春さきから夏にかけてつばめをけいめいする。鳥が巣作りをして子育てをします。一時には、鳥の数が沢山になります。農薬の使用基準の出来虫がほんしくしたので、自然の天敵も増えて、バランスが良くなるのかも知れません。そんな中、ふる里の山河に野鳥や植物を、と心細い人達も増加しています。残念な事です。

夏休み、お盆休みには是非ふる里へ帰って、はしかがでしゅう。祖先のねむるふる里の、エに生れて土に生く我ら若人、徹らくもひのよ、あふれるり、若き血だ。そんな歌を歌いたく、ふる里の、ふる里でありたいと思えます。これから盛夏、健康に気を付けて頑張りましょう。